新聞は街だ

なるへそ新聞出足好調

思い出はニュースだ

西成なるへそ新聞社(大阪市西成区)は三月末同紙の創刊を発表した。西成区で芸術活動を展開するブレーカー・プロジェクトとの共同企画によって生まれたこの独創的な新聞は、地域に住む人々の記憶を頼りに「西成の今昔」を新聞紙上に街の風景として再現して行く。一つ一つの記事は紙面上にある家や区画の様に扱われ、街の変化同様新しい記事を入れる際には古い記事を切り取って取り壊し、少しずつ時間をかけて記事が差し変わって行くというユニークな形式だ。人が人に話を聴き、手作りで造っていく「手書き」の新聞。個人的な思い出話を、それが何年前のものでも新聞記事として現在の事のように扱うことで新旧の家々やそこに住む人々の記憶が入れ子の様に混在するリアルな都市の姿をこの新聞は体現すると、同紙編集長山田亘氏は語る。同社は一般参加の記者を公募中。参加する記者達の取材の過程そのものが人から人への歴史の橋渡しともなっていく。

なるへそ記者

「西成なるへそ新聞」は新規の記者を広く募集している。忘れる事の出来ない大きな戦争体験をすら徐々に個人のディティールを失って単なる「歴史の一ページ」となって行く現在、この街に住む人々の生きて来た記憶が気づかない内に消えていってしまう前に、出来るだけ多くの方々から「暮らしの体験談」を聞き出していただきたいと同社広報の村田仁氏は語る。時空間を奏く街の移り変わりの姿を一緒に作っていく「なるへそ記者」には報酬脆章とメモ等が支給される。年間を通しての参加から、数回や一回限りでの参加も可能だ。

発行:西成なるへそ新聞社
ブレーカープロジェクト実行委員会
発行人:山田亘
編集:ブレーカープロジェクト実行委員会・村田仁
図案:村田仁

砂糖の山を登頂す

築港

二十二日夜未明、米国より築港に着いた貨物船内で、高木進さん(23)が、砂糖の山の登頂に成功した。高木さんは船かちの積み上げ業務に就いており、この日は船庭部の倉庫に精製前の砂糖が根包されずに粒のまま、山になって運ばれて来ていた。スコップで山を切り崩していくのだが、長靴のまま砂糖の上に乗るので、白い砂糖は黒く汚れる。「あれ見たら、もう砂糖食べられへんよ」と高木さん。甘くはない登山のようである。

五時からメタボ

築港

築港の船つき場で荷下ろしの仕事をする明係者の間では、港湾労働者の「夕方肥満現象」が話題になっている。同職場で勤務する男性は、「細身の同僚が、仕事に来た時と帰る時で着ぶくれの具合いが違っていた。」と述べる。

最近、船つき場で船微された荷物の盗難が相次いでおり、肥満化した男性との関係が疑われている。

また、正月太りの男性労働者たちはあらぬ疑いをかけられ、困惑している。

プロ野球(?)ストーブリーグ?

山王一丁目にて加光浴場を経営する3代目山口さん(7)(金塚小学校2年生)は御家族を含め14人の従業員で銭湯を運営している。然料となる薪は柿子の工場や、お隣の木製ハンガー制作会社から出る廃材を再利用する地球にやさしい銭湯である。働き者の山口さんは小学校から帰ってくるとたまに番台に座る。同級生のお友達にも人気のお湯が自慢だ。夏休みは6人の親友と路地裏で2ベース野球に興じながら釜場の面倒をみる。が、たまに野球に夢中になり薪を入れるのを忘れてしまう。遊び盛りの3代目は、銭湯が定休日である日付に9のつく日がたのしみだ。小学校がお休みの創立記念日9月19日は加光浴場もお休み。「友達と一日中遊び廻ってやる」と今から意気が荒い。

ドラフト注目の三記者

二十日、五号が発行された西成なるへそ新聞では、次号に向けての取材を開始した。同社は今月新たに三名の記者を採用し、日々変わりゆく個々の思い出話の取材に向けての体制作りに余念がない。人事担当の桝尾真由子さんは、『ライターや地域研究者、デザイン等、専門を持つ記者を採用出来た事は大変心強い、取材対象の拡大につなげたい』と語る。記者は現在も募集中で、幅広いジャンルからの応募を期待している。

期待の新人社員

「0才」児まちを駆ける

梅田哲也氏 空き家で展示

五月一日より山王にある空き家(山王1-6-24)を会場に、美術家・梅田哲也による作品が公開された。この展示は来年二~三月に予定している展覧会「0才」に先駆け、地元に向け展示の様子を知ってもらおうというもの。展覧会「0才」は、まちなかの様々な場所を作家独自の視点で捉え直し、まち全体を展覧会場であるかのごとく展開される。今後本紙では、「これ、なんでんの?」の視点でなるへそ記者が作品をレポートしていく。

洋品店へ再生

幅

二十一日、太子一丁目の動物園前一番街商店街の「丸亀」より出火し、大正時代に建てられた店舗が焼けた。出火原因は漏電とみられている。「丸亀」では蕎や大工職人、建設労働者向けの作業着を製造販売していたが、この火事により、商品の作業着を縫製するための型紙が焼失した。店の村井康夫さん(44)は「最近は建設現場の安全性が向上し、色のバリエーションが豊富な中国の安い既製品でお洒落や個性を競う時代になった。昔ながらの職人気質のお客さんが減っている」と語り、これを機に店舗をカジュアルものを扱う洋品店へ生まれ変わらせることを検討しているという。

望郷之念 故郷山河

農村は、農業漁業林業畜産等によって生活を樹てているが産業革命以来は都会に人心は集中する様になり故郷を離れる人が多くなっているので生れ故郷に四季折々の変る時位いは思いをはせては懐しむと言う事は当然と言えよう。里山の野山を偲ぶ親兄弟姉妹の事を思うのは誰しも同じと思う。幼少の頃を思い出しては春。秋の彼岸夏のお盆位いは郷里に帰る生活はと思うのは当然と言えよう。忘れられない里山の風景を思い一層の懐かしみを覚えるのは誰れしも同じと思う。明治時代の文学者はよく誰れか故郷を思はざると言った詩をみせてくれてるのをみると何とも言えぬ気分にさせてくれる事がある。

木葉巴不郎

アーバンカジュアル 丸亀
太子1-11-2

広告主募ム

Kioku 手芸館
たんす
お家のタンスに眠っている編み物を譲って下さい。
山王1-11-5(元・鈴木タンス店)

いきなきもの
小福屋
◆おしゃれな作務衣別誂えします。
山王2丁目14-9

大阪市現代芸術創造事業
ex・pots 2011-2013
Breaker Project
山王・飛田・太子・新世界
地域密着型アートプロジェクト
http://breakerproject.net